

高校生の社会参加に関する意識調査報告書〔概要〕

—日本・米国・中国・韓国の比較—

このたび、国立青少年教育振興機構では、令和2年9月～令和3年2月に高校生を対象として実施した標記の国際比較調査の結果を取りまとめたので報告する。

日本の高校生の主な特徴

※（ ）内は本概要の掲載ページ

1 学校行事やクラブ活動への参加意欲は高いが、生徒による自治活動への参加意欲は低い

日本の高校生は「学校行事(運動会や文化祭など)」「部活やクラブ活動」に「積極的に参加している」と回答した者の割合がいずれも約6割で、4か国中最も高い。

また、学校の生徒による自治活動に「とても参加したい」「まあ参加したい」と回答した割合が40.2%で、中国79.5%、韓国72.0%、米国47.0%に比べて最も低い。参加したくない主な理由は「興味がない」である。→(p.4～)

2 学校外の活動の中では、趣味に関する活動の割合は高いが、米・中・韓と比べれば全般的に低い

日本の高校生は、「趣味に関する活動」に「最近1年間、学校外で参加したことがある」と回答した者の割合が4割弱で、例示した11項目の中で最も高いが、米・中・韓に比べて低い。また、ほとんどの学校外の活動への参加経験が4か国中最も少なく、とりわけ、「寄付・募金活動」「環境・自然保護に関する活動」「動物愛護に関する活動」「社会福祉に関する活動」の割合が低い。→(p.6)

3 趣味やアルバイトへの関心が高いが、政策への意見表明や地域の交流活動への関心が低い

日本の高校生は、「趣味に関する活動」「アルバイトや仕事」に「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した者の割合がいずれも8割を超えているが、「地域の子ども・若者の交流活動(子ども会など)」「政策に対する意見表明に関する活動」に「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した割合が米・中・韓に比べて8ポイント以上低い。

→(p.7)

4 新聞やニュース*をよく見るが、「エンターテインメント」に関心が高く、「政治」「文化」への関心は低い

日本の高校生は、新聞やニュースを「ほぼ毎日見る」と回答した者の割合が4割弱で、米・中・韓の約2割に比べて高い。関心が最も高いニュースは「エンターテインメント」(64.9%)で、次いで「社会」(57.6%)「スポーツ」(51.9%)である。「政治」(39.7%)「文化」(23.2%)への関心は4か国中最も低い。→(p.8)

*質問票では特に「紙媒体」や「インターネット」と特定していない

5 インターネット上で知り合いとのコミュニケーションを「よくする」が、社会や政治に関する情報の収集や発信を「よくする」と回答した割合が低い

日本の高校生は、インターネット上で「実際の知り合いとのコミュニケーション」を「よくする」と回答した者の割合が8割弱で4か国中最も高い。社会や政治に関する情報の収集や発信及び誰かを楽しませたり、手助けする活動を「よくする」と回答した割合が米・中・韓に比べて約10ポイント低い。→(p.9)

6 社会問題を自分の生活に関わることとして捉えているが、政治や社会への参加意欲は低い

日本の高校生は、「社会問題は自分の生活とは関係ないことだ」と考えている(「全くそう思う」「まあそう思う」、以下同様)割合が2割未満で中国に次いで低いが、「私個人の力では政府の決定に影響を与えられない」「政治や社会より自分のまわりのことが重要だ」「現状を変えようとするよりも、そのまま受け入れるほうがよい」「政治や社会の問題を考えるのは面倒である」と考えている割合がいずれも4か国中最も高い。反対に、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」「高校生でも社会をよくしていける」「国のために尽くしたい」と考えている割合がいずれも4か国中最も低い。→(p.10)

【問い合わせ先】

国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL : 03-6407-7741 FAX : 03-6407-7689 Email kenkyu-soumu@niye.go.jp

・考察(要旨)

高まる社会参加の意識 発揮できない影響力 ―日本の若者は「自分本位」なのか―

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター研究員 両角達平

若者の社会参加への施策的な関心が高まる中、4か国の当の若者も社会参加に関する意識が高まっていることが、経年比較の結果から明らかとなった。他方で社会参加の効力感を得られない若者の割合も増えているのは、意見表明や社会参加活動の際に何かしらの阻害があるのではないかとすることを、本調査のデータを根拠に論じた。また、日本の若者特有の現象としては学校行事、部活、生徒会活動は積極的であるものの自治活動には消極的であり、学校外での社会参加も私的事柄に偏る傾向があることを再整理した。

以上を踏まえて、教育的なアプローチへ過度に傾倒せず社会参加を促すために、社会を構成する主体として子ども・若者の代弁組織を位置付けることと、若者文化への着目を提言した。「おわりに」では、本調査の因子分析の結果、社会参加志向が低く「自分本位」的と分析された日本の若者について論じた。

◎考察の全文は報告書の p.75～に掲載しております。

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、高校生の社会参加に関する意識や実態を把握することを目的としている。また、米国、中国、韓国でも同時に実施し、諸外国と比較することで、日本の特徴や課題を分析し、若者の社会参加の推進を図るための基礎資料を提供する。

2 調査方法等

調査時期、調査対象などは次のとおりである。

	日本	米国	中国	韓国
調査機関	国立青少年教育振興機構	一般財団法人日本児童教育振興財団(委託)	中国青少年研究センター	ソウルYMCA、韓国多文化青少年協会
調査時期	2020年9月～2021年2月	2020年10月～12月	2020年9月～12月	2020年9月～12月
学校数	40	7	24	34
調査地域	26	7	6	6
調査方法	集団質問紙法(36校) 学校を通してのWEB調査 (4校)	学校を通してのWEB調査	WEB調査(学校でパソコンやスマートフォンなどで回答)	集団質問紙法
有効回答者数(人)	4623	1300	5019	1526

3 調査対象者の基本属性

		日本	米国	中国	韓国
性別	男	41.7%	32.6%	46.8%	48.1%
	女	55.1%	65.5%	53.2%	51.6%
	どちらとも言えない	1.1%	0.8%	-	-
	答えたくない	1.5%	1.1%	-	-
	無回答	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
学年	高1	32.1%	38.4%	38.2%	42.7%
	高2	33.2%	38.8%	32.4%	37.4%
	高3	34.3%	22.8%	29.4%	19.7%
	無回答	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%
回答者数(人)		4623	1300	5019	1526

4 調査結果からみる日本の高校生の特徴

1) 学校行事やクラブ活動への参加意欲は高いが、生徒による自治活動への参加意欲は低い

日本の高校生は「学校行事（運動会や文化祭など）」「部活やクラブ活動」に「積極的に参加している」と回答した者の割合がいずれも約6割で、4か国中最も高い（図1）。

また、学校の生徒による自治活動に「とても参加したい」「まあ参加したい」と回答した割合が40.2%で、中国の79.5%、韓国の72.0%、米国の47.0%に比べて最も低い（図2）。参加したくない主な理由は「興味がない」である（図3）。

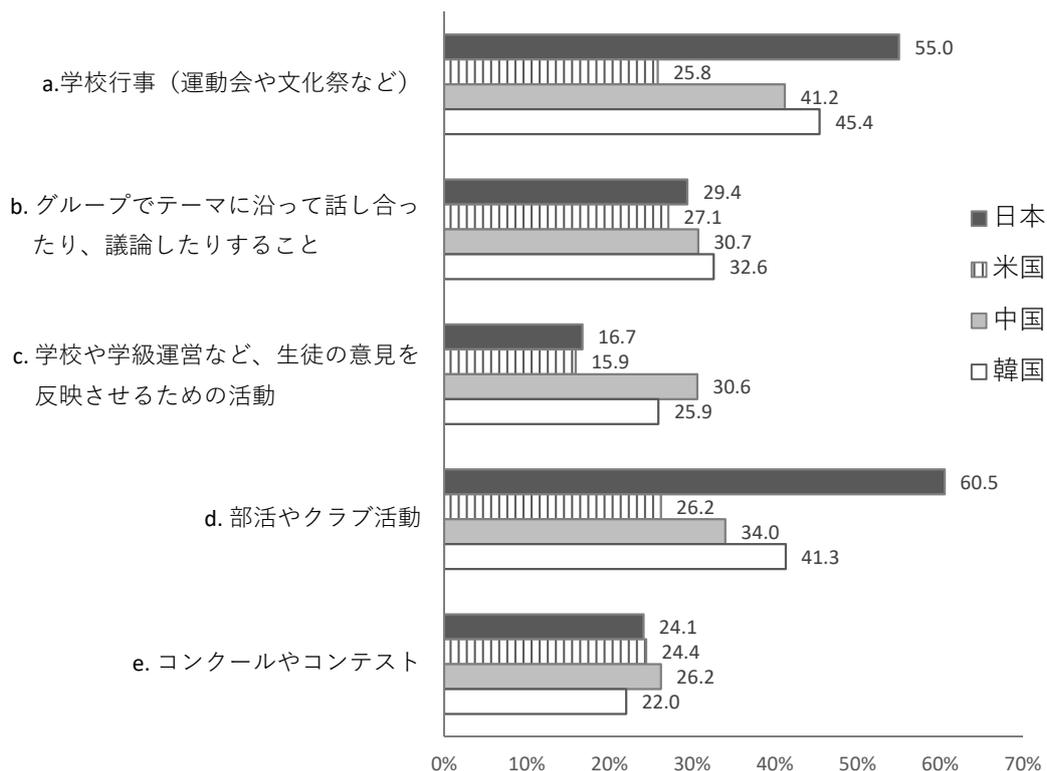


図1 学校でa.~e.の活動に積極的に参加しているか（「積極的に参加している」と回答した者の割合）

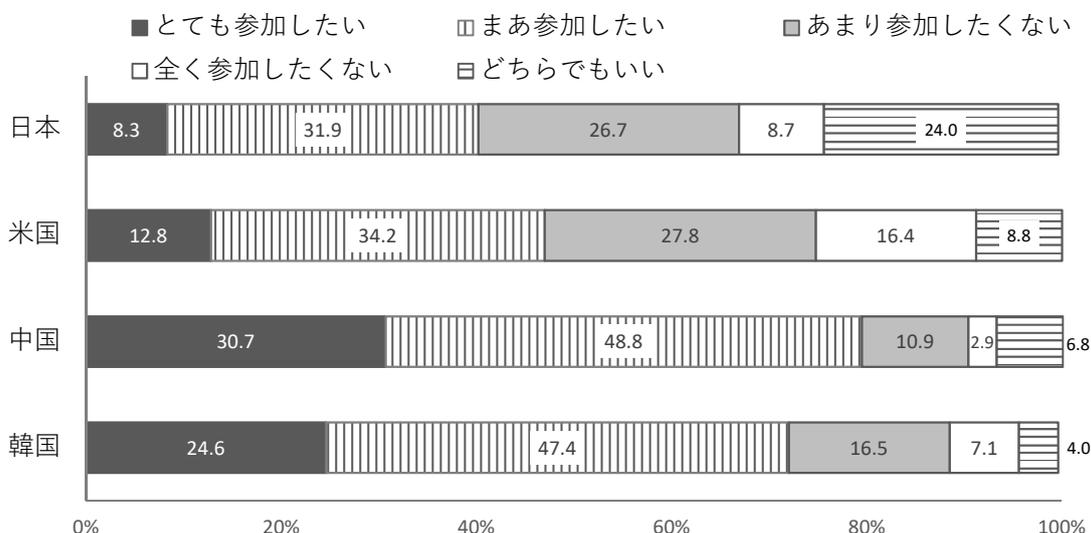


図2 学校の生徒自治活動（生徒会活動や学校に要望を出すなど生徒が独自に行う活動）に参加したいか

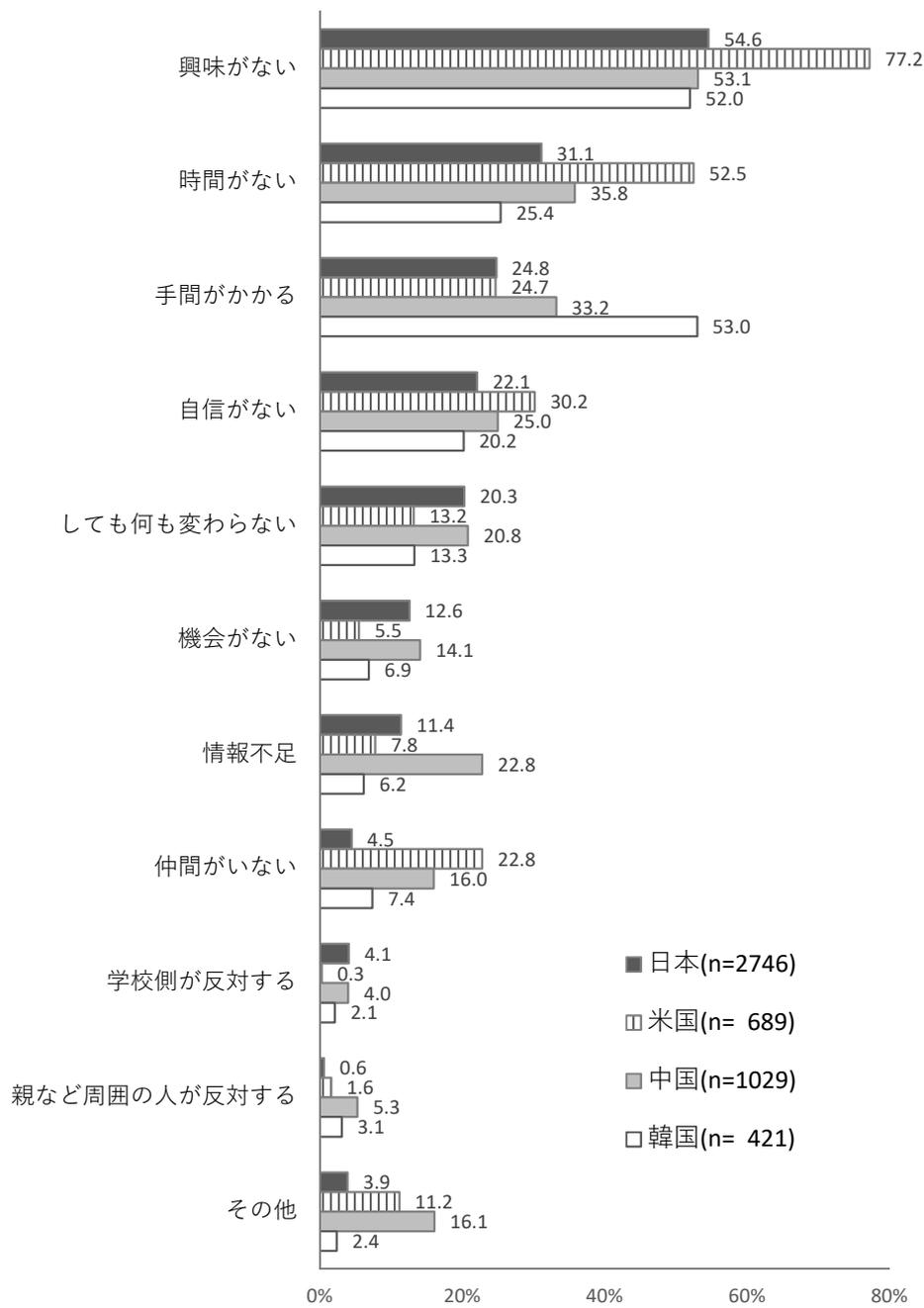


図3 [学校の生徒自治活動に「あまり参加したくない」「全く参加したくない」「どちらでもいい」と回答した者] 学校の生徒自治活動に参加したくない理由(複数回答)

2 学校外の活動の中では、趣味に関する活動の割合は高いが、米・中・韓と比べれば全般的に低い

日本の高校生は、「趣味に関する活動」に「最近1年間、学校外で参加したことがある」と回答した者の割合が4割弱で、例示した11項目の中で最も高いが、米・中・韓に比べて低い。また、ほとんどの学校外の活動への参加経験が4か国中最も少なく、とりわけ、「寄付・募金活動」「環境・自然保護に関する活動」「動物愛護に関する活動」「社会福祉に関する活動」の割合が低い(図4)。

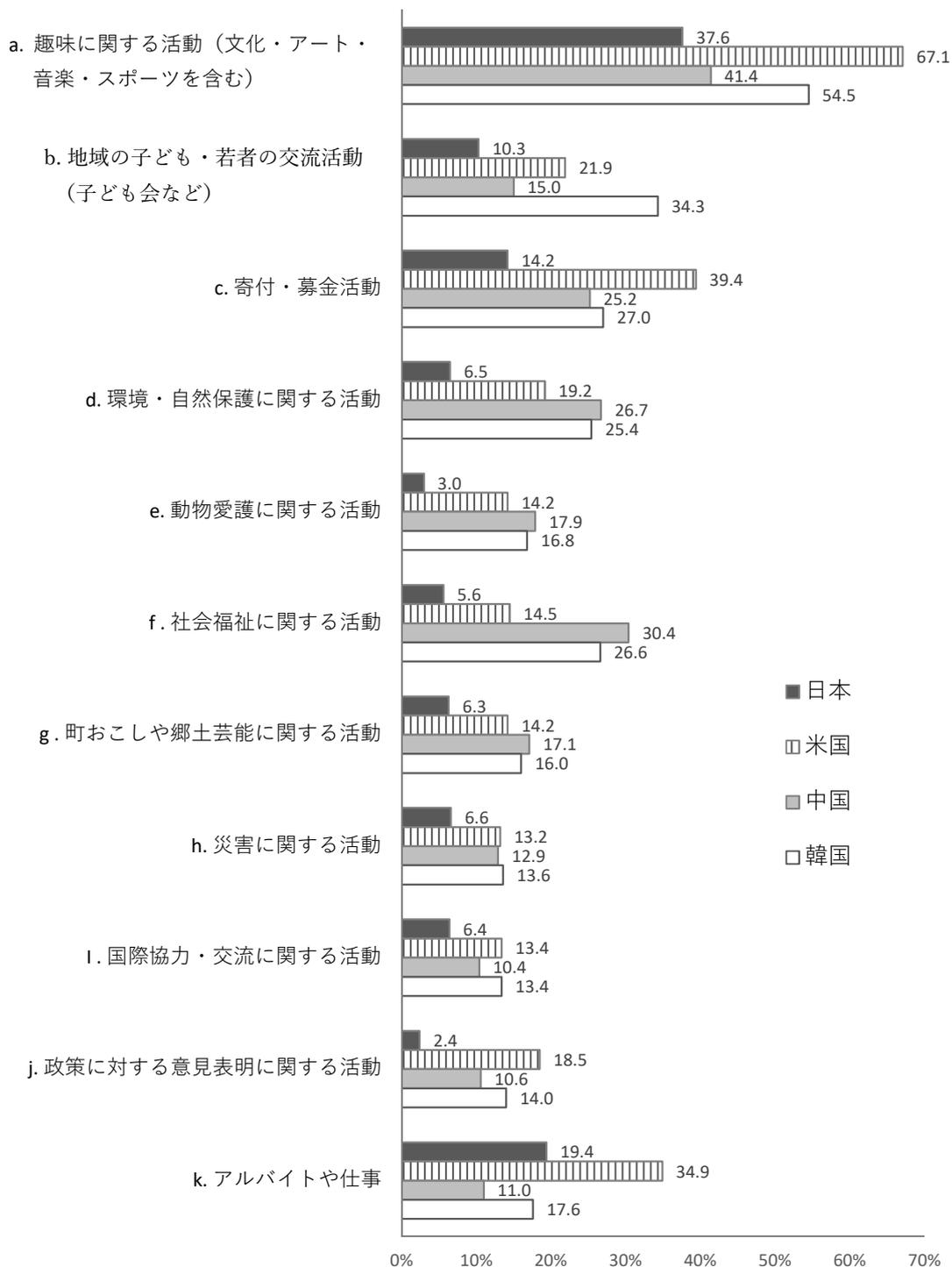


図4 最近1年間、学校外で参加したことがある(現在、参加しているのも含む)こと

3 趣味やアルバイトへの関心が高いが、政策への意見表明や地域の交流活動への関心が低い

日本の高校生は、「趣味に関する活動」「アルバイトや仕事」に「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した者の割合がいずれも8割を超えているが、「地域の子ども・若者の交流活動（子ども会など）」「政策に対する意見表明に関する活動」に「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した割合が米・中・韓に比べて8ポイント以上低い（図5）。

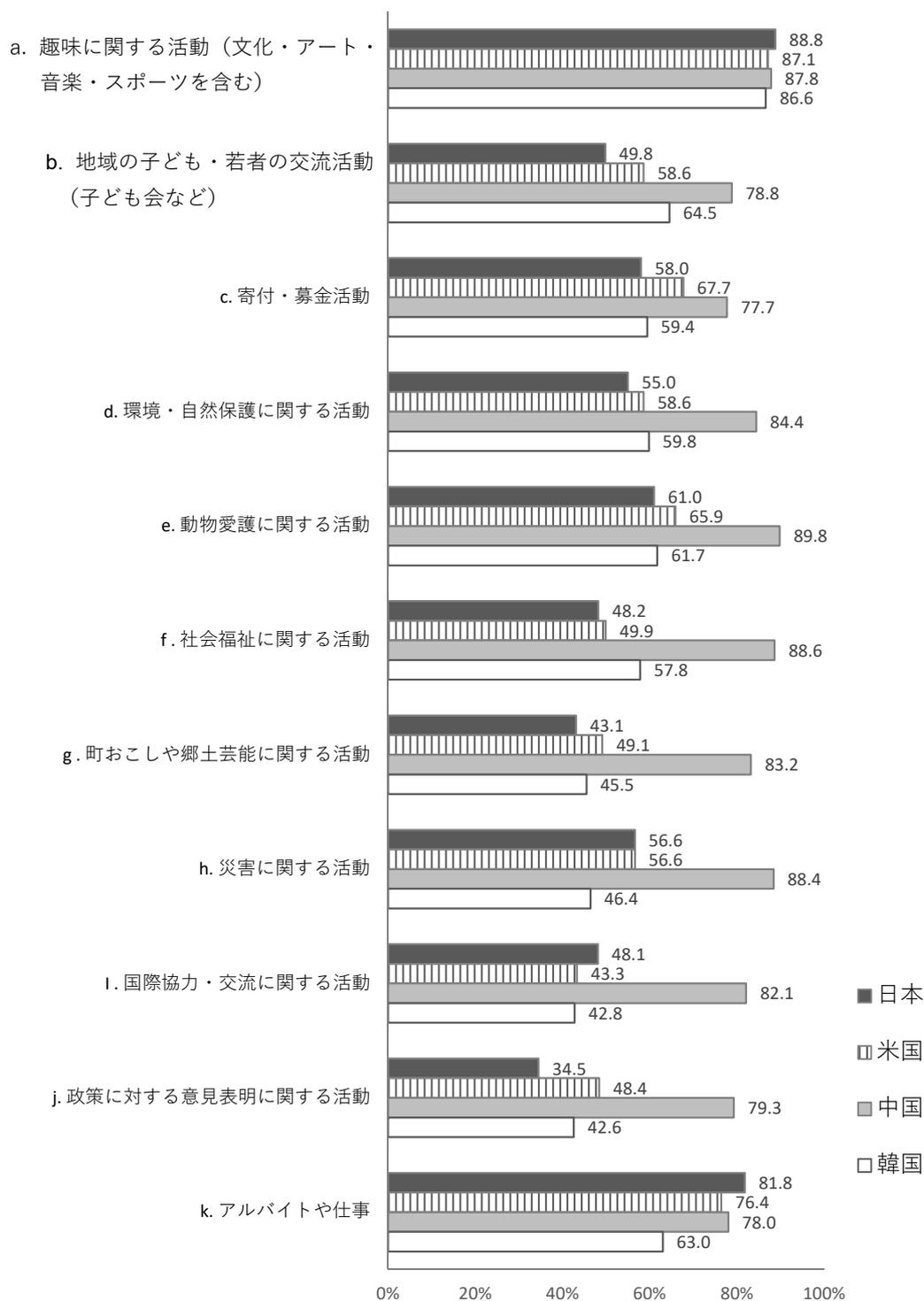


図5 a～kの活動にどのくらい関心を持っていますか（「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した者の割合）

4 新聞やニュースをよく見るが、「エンターテインメント」に関心が高く、「政治」「文化」への関心は低い

日本の高校生は、新聞やニュースを「ほぼ毎日見る」と回答した者の割合が4割弱で、米・中・韓の約2割に比べて高い(図6)。関心が最も高いニュースは「エンターテインメント」(64.9%)で、次いで「社会」(57.6%)「スポーツ」(51.9%)である。「政治」(39.7%)「文化」(23.2%)への関心は4か国中最も低い(図7)。

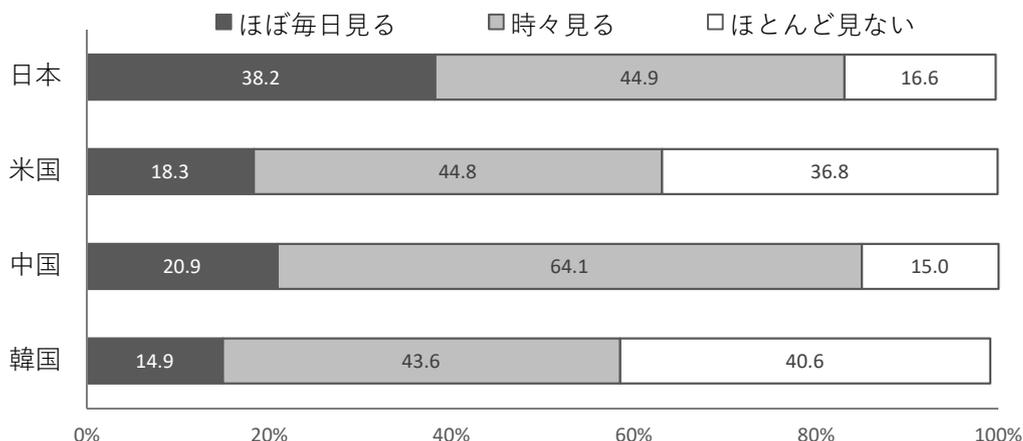


図6 新聞やニュースをよく見ますか

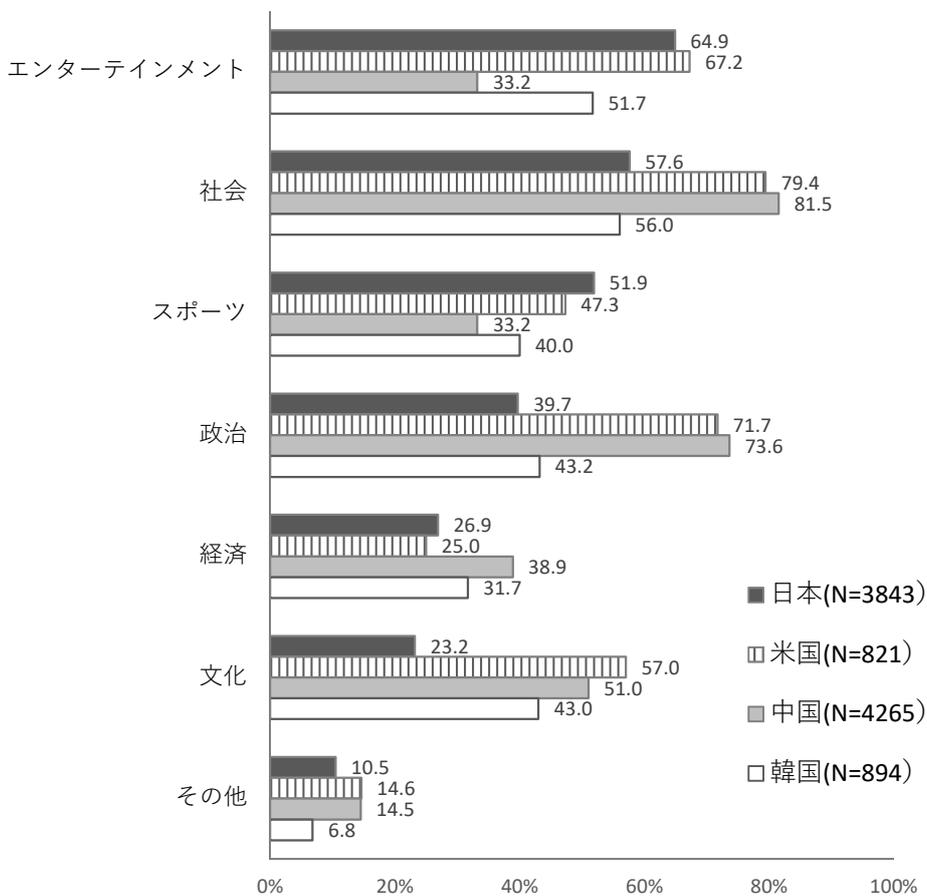


図7 [新聞やニュースを「ほぼ毎日見る」「時々見る」と回答した者]どんなニュースに興味があるか(複数回答)

5 インターネット上で知り合いとのコミュニケーションを「よくする」が、社会や政治に関する情報の収集や発信を「よくする」と回答した割合が低い

日本の高校生は、インターネット上で「実際の知り合いとのコミュニケーション」を「よくする」と回答した者の割合が8割弱で4か国中最も高い。社会や政治に関する情報の収集や発信及び誰かを楽しませたり、手助けする活動を「よくする」と回答した割合が米・中・韓に比べて約10ポイント低い。(図8)。

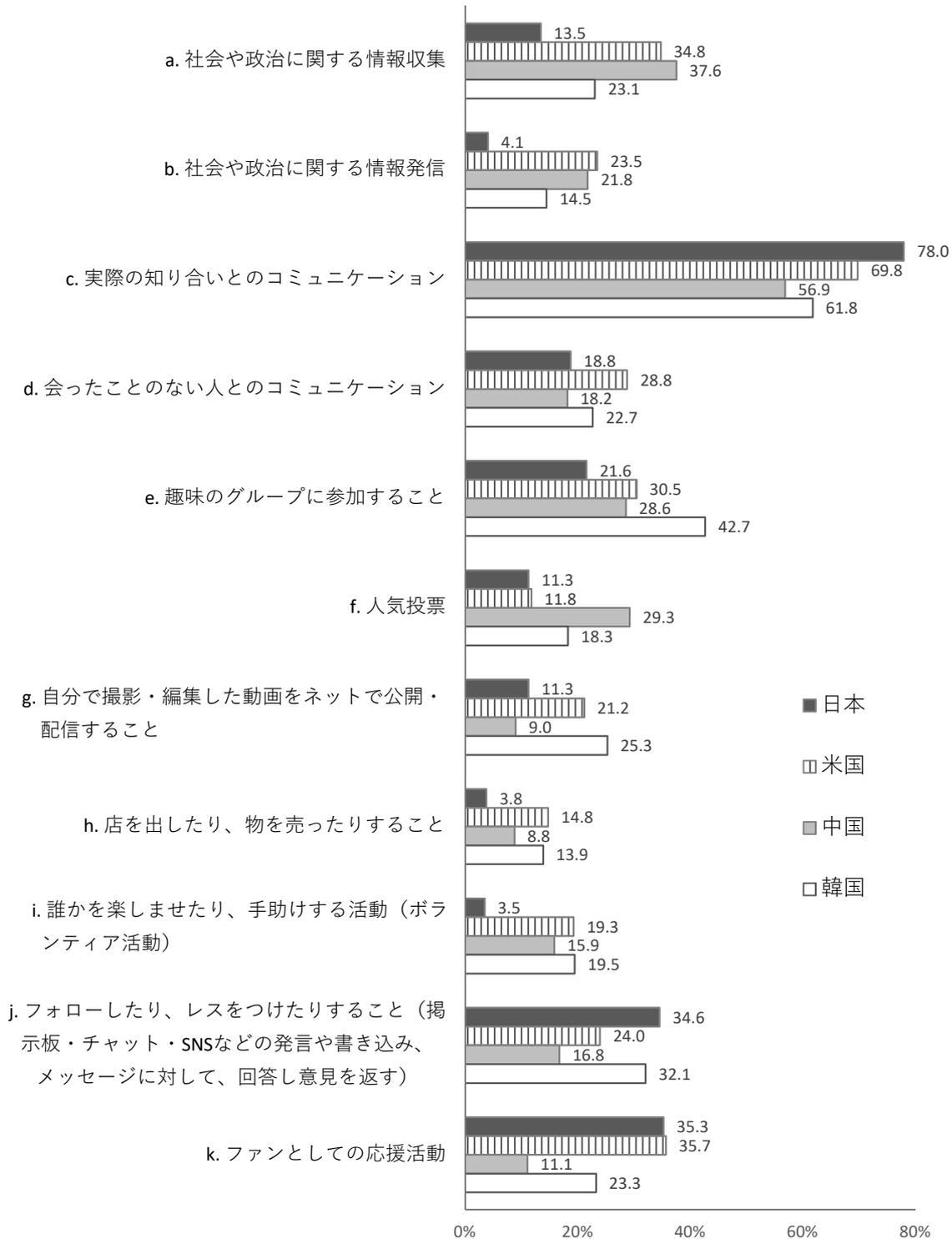


図8 インターネットでa~kのことをどのくらいしていますか(「よくする」と回答した割合)

6 社会問題を自分の生活に関わることとして捉えているが、政治や社会への参加意欲は低い

日本の高校生は、「社会問題は自分の生活とは関係ないことだ」と考えている（「全くそう思う」「まあそう思う」、以下同様）割合が2割未満で中国に次いで低いが、「私個人の力では政府の決定に影響を与えられない」「政治や社会より自分のまわりのことが重要だ」「現状を変えようとするよりも、そのまま受け入れるほうがよい」「政治や社会の問題を考えるのは面倒である」と考えている割合がいずれも4か国中最も高い。反対に、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」「高校生でも社会をよくしていける」「国のために尽くしたい」と考えている割合がいずれも4か国中最も低い。（図9）。

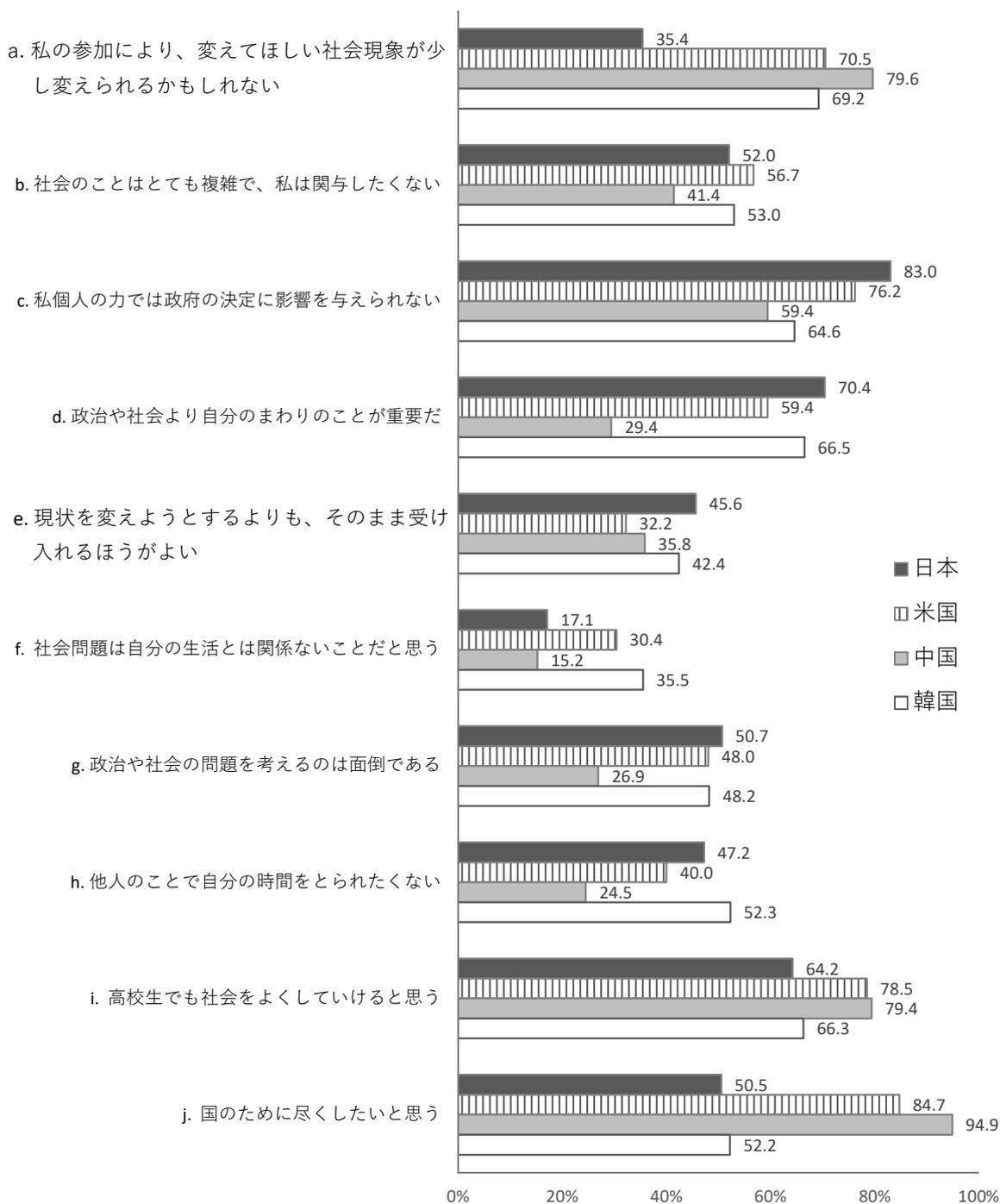


図9 社会参加についての考え方（「全くそう思う」「まあそう思う」と回答した者の割合）